



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区錦町1-3-9
(市役所錦町庁舎3F)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

民間ユネスコ運動の日

2019年「民間ユネスコ運動の日」
記念講演・交流会

講演

演題 「今こそ！みんなでESDの輪を！」

講師 福島県只見町教育委員会元教育長 齋藤修一氏

「今こそ！みんなでESDの輪を！」
福島県只見町教育委員会
元教育長 齋藤修一様

仙台ユネスコ協会は7月21日(日)にAER6階において
会員、青年部、そして一般の方々合わせて72名の参加
のもと「民間ユネスコ運動の日」記念講演・交流会
を開催いたしました。

はじめに青年部の佐藤柊吾さんからユネスコ会員綱領
唱和をしていただき、続いてユネスコの歌「手に手をとっ
て」を参加者全員で斉唱しました。開会にあたり見上一
幸会長より参加者への御礼と仙台ユネスコ協会で活動し
ている現状報告がありました。また、毎年、仙台ユネス
コ協会の活動の一つであります世界寺子屋運動（書き損
じはがき）や国際交流事業への支援、そして学園祭での
収益金の一部をご寄付いただいた4団体に対しまして感
謝状の贈呈を行いました。

その後「今こそ！みんなでESDの輪を！」と題して
福島県只見町教育委員会元教育長 齋藤修一様より講演
があり、学校でも企業でも持続可能な地域を担うのは人



感謝状贈呈者／青葉緑化工業(株)、鈴木公也音楽教室トワの会、
学校法人仙台北学園、(株)鈴木青果

づくりであると只見町で取り組んできた活動のお話しが
あり、人材育成がいかに大切かを改めて考えさせられま
した。

その後、青年部から活動紹介もあり参加者にアピール
する良い機会になったと思います。最後に参加され方々
とお弁当を食べながら交流を深めました。

(企画・広報委員長 松坂宏造 記)

これからの行事と催事

世界平和と防災プロジェクト

■日時：11月8日(金)～13日(水)

■場所：エスパル スクエア1F

会員向け 活動報告会・交歓会

■日時：12月18日(水) 17:00～

■場所：DUCCA 仙台駅前店

ユネスコ子ども絵画展

第22回「絵で伝えよう！

わたしの町のたからもの」

■日時：2020年1月7日(火)～11日(土)

■場所：東北電力ビル1F



公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、
1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。



7～9月の活動実績



ESD講座 ESD/SDGs委員会企画

2019/7/7



▲左から渡邊教授、
栗永課長、作田教授

◀熱心なグループワーク

▼発表も素晴らしかった

SDGsについて学ぶ講座は昨年の『気候変動』に次いで2回目。今年度は『食』を切り口に2部構成で実施しました。前半、宮城大学食産業学群 作田竜一教授の講演でSDGsの概要を学び、後半、最近特に社会問題になっているフードロスについて、尚絅学院大学 渡邊千恵子教授コーディネートによるグループワークを行いました。

第1セッションで『私たちの身近にある食品ロス』を想起し、第2セッションで仙台市環境局廃棄物企画課 栗永規行課長から『食品廃棄物の削減に関する仙台市の取組』を教えてください、第3セッションで、『私たちが考えるアクションプラン』をまとめました。

中学生から後期高齢の方まで一緒になって学び合った講座となり、参加者アンケートには、「SDGsについてわかった」「自分で出来ることは何かを考えるきっかけになった」「世代を超えた討論は楽しかった」など書いていただきました。

ご協力いただいた先生方、ファシリテーターとして活躍した青年部の皆さんに感謝、ESD/SDGs委員会では、これからも啓発イベントを企画していきます。

（委員長 内藤恵子 記）



第75回日本ユネスコ運動 全国大会 in 東京

2019/9/7～8



2019年9月7～8日にかけて開催された「第75回日本ユネスコ運動全国大会in東京」に参加してきました。

様々なプログラムがありましたが、印象に残ったのは、今年の全国大会がユネスコ世界寺子屋運動30周年記念ということもあり、実際に寺子屋で学習した方が直接この大会のために来日し、自身の経験を話してくれたことです。

来日された3人の方々は、44歳で識字クラスに通ったネパール人女性、11歳で識字クラスに通ったアフガニスタンの男性、11歳で復学支援クラスに通った現役の高校生でした。彼らは寺子屋に通った背景も年齢も様々でしたが、寺子屋の存在によって人生が変わり、これからは自分がある地域や環境も変えていこうとしており、その姿に感銘を受けました。

これまで、寺子屋運動が民間ユネスコ運動の大きな柱であり、活動自体は当然知っているつもりでしたが、実際に寺子屋で学習した方々の話を直接聞くと、改めて勉強になることが多くあり、実りのある2日間となりました。（青年部 高松美聡 記）

【付記】 今回の大会は「学びを通して地域を振り返る」というテーマで、1日目は、世界寺子屋運動30周年記念の年で識字教育と共生が論題となりました。2日目は、山田洋次監督が聴衆を魅了。型にはまらず自由奔放な寅さんから学ぶことの多いことや、映画にも登場した夜間中学生の逞しく、琴線に触れる言動等、山田監督の言葉を噛みしめながら会場を後にしました。仙台からは10名の参加（青年部3名 役員7名）でした。

第54回国際理解に関する 弁論大会

2019/9/9

9月9日（月）国際理解弁論大会 宮城県予選があり、当協会から岩山理事が審査委員として参加しました。「広く世界に目を向け、特に発展途上国を訪れた時の体験等をもとに、貧富の差や厳しい社会環境に目を向けた発表が印象的であった」との感想でした。18名の発表者の中から「仙台ユネスコ協会賞」には名取北高校の菅野遥さんの「全ての子ども達に夢と希望を」が選ばれました。

青年部だより



第5回 宮城ユネスコ子どもキャンプ

2019/8/9～11



8月9日～11日に開催された、「第5回宮城ユネスコ子どもキャンプ」のご報告をさせていただきます。

仙台ユネスコ協会青年部では一番大きなイベントです。子ども参加人数は52名、スタッフ参加人数は32名で今年のキャンプは行われました。テーマは、「なぜ、たとえば、もしも、だから」の頭文字をとった「なたもだ」でした。自分の想いをうまく言葉で伝えてほしい、そして伝えるだけでなく相手の考えも聞き入れ相互理解をしてほしいという思いが込められています。

青年部でも「なたもだ」を使いこなすことが難しいと感じていましたが、子どもたちは3日間でうまく使いこなす多くの「なたもだシール（なたもだを上手く使うともらえるシール）」を集めることができました。

SDGsを取り上げたプログラムでは、世界の問題に目を向け自分たちができることを「なたもだ」を使いながら班で発表してくれました。子どもたちの知識の多さ、そしてアイデアの豊かさに驚かされました。（青年部 竹中和奏 記）

スタディツアー in 沖縄

2019/9/14～16



平和記念公園にて～平和の塔を背に～

2019年9月14日から16日まで、沖縄スタディツアーを開催致しました。初回である今回は、青年部5名、一般参加者2名の計7名で、沖縄戦や琉球文化について勉強してきました。

スタディツアーの開催は、青年部で初めての試みだったため運営面での反省点や課題は多くありましたが、ツアー中の活動はたくさんの実りがあるものとなりました。戦争の過ちを知ると共に、引き継がれてきた歴史や文化を学ぶ。私は、スタディツアーの醍醐味はその両面を見ることだと思っています。戦争などで一度は消え去られようとしていた人々の思いは、現在、文化として後世に引き継がれていること。その大切さを身で知ることができます。

多くのことを学び、考え、そして共に気持ちを共有し、最終日には全員ツアーを通して経験したことを具体的な行動として移そうという気持ちになっていました。全員が来年度も沖縄で勉強をしたいと考えています。運営面や金銭面などで多くの課題もありますが、一年間で各自力をつけていき、来年度はより良いツアーにしたいです。（青年部 中谷祐太 記）

国際色も豊かに盛り上がった交流！！ ～2019せんだい地球フェスタ～

2019/9/23 仙台国際センター展示棟



在仙の約50の海外文化交流、支援する団体を集めて開催された今年のせんだい地球フェスタは、大勢の留学生や外国人、日本の学生や一般の人々の来場の中で開幕しました。各国の珍しい料理、民芸品を展示販売するブース、多彩な民族の音楽や踊りのステージ、国際色豊かな衣装に身を包んだ人々との交流で広い会場もさながらお祭り状態の熱気に包まれました。

ユネスコ協会はホテルメトロポリタン寄贈の七夕飾り、パネルにはユネスコの各活動の紹介や写真、沢山の折り鶴等で存在を伝えることができました。折り鶴コーナーは終始親子連れで楽しそうな笑顔、着物の着付けコーナーは約50人の来客。外国人、日本人、子供大人、男女問わずさながら着物のファッションショー、着付けを通して大きな文化交流となりました。

スタッフの献身的な努力と協力のおかげでブース前ではたくさんの方たちが足を止めユネスコの説明に耳を傾け、用意していた宣伝用のチラシも品切れの盛況でした。（奥村静剛 記）

トピックス

少年の主張

▲賞状を受け取る
吉田彩音さん◀彩音さんのお母様と
参加役員

9月5日(木) 西多賀中学校を会場とした「少年の主張太白区大会」があり、吉田彩音さんが郡山中代表として出場しました。ユネスコ子どもキャンプでの経験を「過去の私に言いたいこと」という題で発表しました。仙ユから6名の役員が聴衆として参加し、成長していく姿に感動を覚えていました。

「りらく」取材

◀雑誌「りらく」10月号に掲載
「顔語り」より

見上会長が「りらく10月号」の取材を受けました。9月末発行、「顔語り」という頁で、にこやかな笑顔と専門分野（ゾウリムシ）のお話が楽しい記事です。3年前には中村前会長が「りらく」の紙面を飾りましたので、引続いての掲載となりました。市民の皆さまとのいい橋渡しになると感じます。

ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム
第2回学びあいセミナー

■日 時 8月19日(月) 於 宮城教育大

■テーマ 東北地方4地域におけるESD・SDGs推進の実践

— 発表者 —

- 気仙沼地域 小山 淳氏 (気仙沼市教育委員会教育長)
- 平泉地域 岩渕 実氏 (平泉町教育委員会教育長)
- 大崎地域 武元 将忠氏 (大崎市世界農業遺産推進監)
- 只見地域 齋藤 修一氏 (只見町教育委員会前教育長)

今年は、日本ESD学会のシンポジウムの一つとして開催、参加者も全国規模で質問も多岐にわたり活気に満ちた「学びあいセミナー」でした。特に7月「民間ユネスコ運動の日」で講演なさった齋藤修一氏は、人類滅亡への脅威を掲げ、「共生とは、人と人・国と人・人と自然である」「学力は他人のために使うもの」と述べ、そのうえで「か⇒も」と。つまり「開発か保全か⇒開発も保全も」という発想の転換が必要であるということ。深い言葉と共に持続可能な社会創りの課題の深遠を痛感しました。

シンポジウムの様子
中央が齋藤氏

かねてよりお伝えしてまいりましたが、日本ユネスコ協会連盟の機関誌「ユネスコ」は、10月号からWEB掲載となります。

掲載になりましたら、仙台ユネスコ協会のホームページ上でお知らせし、同時に仙台ユネスコ協会のホームページからも見られるようにする予定です。なお、「ユネスコ」は4月・10月・1月の3回発行・掲載の予定です。

“11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に”
ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった62円ハガキは1枚につき57円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりがひと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	98
個人会員	173
青年部会員	18
合計	289

(2019年9月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
赤塚 吉雄 伊藤 律子
岩山 浩一 菊池 健一
佐藤 皇季 千葉 雅保

【編集後記】 仙台ユネスコ会報461号をお届けします。7月から9月までの活動報告をまとめました。

年1回の民間ユネスコ運動記念講演交流会では「今こそ！みんなでESDの輪を！」と題した講演でした。まさに今、学校でも企業でも持続可能な地域を担うのは人づくりであるというテーマのお話は心に響きました。また今年も仙台地球フェスタに展示ブースを出展。青年部からは子供キャンプの報告と、仙台ユネスコ協会は一人ひとりが思いやりの活動をしています。活動についてご興味がありましたら事務局までお問い合わせください。

(仙台ユネスコ会報編集長 小泉 知加子)